

安武校区で取り組んだ地域学校協働活動

【概要】

久留米市立安武小学校は「令和4年度久留米市コミュニティ・スクールモデル校事業」を受託。その際、地域学校協働活動推進員を委嘱された緒方 麻美氏の取組。久留米市版CSから全国版CSに変わる際のメンバー構成の変容や熟議の様子、推進員としてのコーディネート活動について発表。また、子ども、保護者及び教職員も多忙であることを受け止めた上で、「地域の資源・人材」となっていく子どもを育てるために、もっと地域を頼ってほしいという思いを語られた。

【取組等～事例発表スライドから～】

02 コミュニティ・スクールの推進

地域学校協議会から 学校運営協議会へ

旧構成メンバー
校長、教頭、主幹教諭
校区青少協会長、会計
PTA前会長、元会長
有志など
※数年来変更なし

新たな構成メンバー

- 校長・教頭・主幹教諭
- 校区青少協会長
- 主任児童委員
- PTA会長、前会長、元会長
- 有志（学習ボランティア）

※「任期制」明文化

03 具体的な事例

熟議のようす

自由に意見を出せる雰囲気




03 具体的な事例

3 学年 × 消防団

校区住民の命と財産を守るボランティアが、身近な「あこがれ」の存在へ



4 学年 × 防災教室

災害の種類と身を守る工夫について
ボレボレ（社会福祉法人拓く）との交流



03 具体的な事例

5 学年 × J A ・女性 の 会

田植え・稲刈り体験
もちつき体験



6 学年 × 錦鯉養殖業

校区の企業訪問とキャリア教育



03 具体的な事例

校区広報誌で

児童と地域の取り組みを発信
地域活動への参加を呼びかけ



	学校	家庭	地域
具体的な取組	● 学級で決めた「ほめる活動」実施	● スローメディア週間「ほめるメッセージ」	● 地域行事等で「ろう活動」
	● 放送朝会等で「ほめる活動」賞状	● PTA広報誌「子どもの活躍掲載」	● ガスト・ティチャー「ほめる活動」

04 それぞれの実態とは

保護者
共働き
収入不安定
忙しい



子ども
孤立化
ネット依存
忙しい



教職員
経験値の違い
記録業務
忙しい



↓

地域の資源・人材